

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第7期第9回相模原市中央区区民会議小委員会（グループ3）		
事務局 (担当課)		中央区役所区政策課 電話042-769-9802（直通）		
開催日時		令和6年2月26日（月） 10時25分～11時05分		
開催場所		相模原市民会館 2階 第2大会議室		
出席者	委員	4人（別紙のとおり）		
	事務局	2人（区政策課職員）		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1 議題</p> <p>（1）第7期中央区区民会議重点行動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域ネットワークの充実」 ・「都市の自然を次世代につなげるまちづくり」 		
会議結果概要		<p>■「都市の自然を次世代につなげるまちづくり」</p> <p>さがみはら生物多様性シンポジウムとエコパークさがみはら主催事業に対して、公民館を活用し、地域に身近なテーマで開催してもらおうよう提言していきたい。次回までに事務局で担当部署に提言内容の趣旨について確認するとともに、提言書（案）を作成する。</p>		

主な内容は次のとおり

開 会

事務局から、運営に係る事務説明を行った。

—傍聴希望者 なし—

1 小委員会（グループワーク）

（1）第7期中央区区民会議重点行動について

■「都市の自然を次世代につなげるまちづくり」

（事務局）

前は、大きなイベントを開催して地域に広がっていけば、という話があった。本日は、イベントや講座の実施主体と興味・意識の向上を図る対象者を検討するとともに、イベントや講座の具体的な内容を出して、実施主体に対する提言につなげていくため、具体的な意見をいただきたい。現状では、さがみはら生物多様性ネットワーク主催のシンポジウムや、かながわトラストみどり財団主催の県民参加の森林づくり活動などがある。また、エコパークさがみはらでは、規模の小さなイベントを開催しているものもある。規模の大きなイベントとしては、年に1回の環境まつりがあり、これまでポーノ相模大野や、ミウヰ橋本インナーガーデンで開催されている。具体的にどんな対象者に対してどんなイベントを実施すれば、地域へ繋がっていくのか、意見を出してほしい。

（坂本委員）

環境まつりは、南区と緑区で開催実績があるが、中央区では実施されているのか。

（事務局）

毎年、区を変えて実施しているのであれば、今年度は、中央区で開催される可能性があるのではないかと。

（斎藤委員）

中央区は、なかなか大きな会場がないため、会場探しをしている状況ではないか。

（坂本委員）

環境まつりには、我々区民会議の委員も積極的に参加するのがよい。

（斎藤委員）

昨日、2月25日に開催された「さがみはら生物多様性シンポジウム」（以下、「シンポジウム」という。）は、悪天候でも多くの来場者が来ていた。来場者は、もともと環境に関心がある人が多いように感じた。シンポジウムに参加しないような人にも、「これだけは守ろう」といった知識を持ってもらいたいので、最終的には公民館等の学習企画のように身近なところへ落とし込めて行けたらと思う。

（事務局）

現状で行っている講座やイベントは、単発が多いように感じる。環境まつりも開催後に参加者が地域に知識等を持ち帰り、実際に継続して地域等の活動に繋がっているものが少ないように感じる。

（坂本委員）

単発でも構わないのではないかと。また、シンポジウムのようなイベントを大野北公民館で開催できないかと。

（斎藤委員）

開催規模は、2月25日に開催したシンポジウムまで大きくなくて良い。同じことをしても発展していかないので、何かもう少しアイデアが必要ではないかと。年1回のシンポジウムとは別に、市民向けの企画をもう一つ開催してもらえるとよい。

（事務局）

シンポジウムは、さがみはら生物多様性ネットワーク（以下、「生物多様性ネットワーク」という。）が主催で、年1回開催しており、80～120人規模である。シンポジウム参加者の年齢層はどのような状況か。

（斎藤委員）

基本的に年齢層は高いが、2月25日は、麻布大学講師による講演会と高校生による研究発表があったことから、高校生が比較的多かった。研究発表は、ドクターフィッシュやヤマビル

などでテーマが面白かった。

(坂本委員)

同じ内容を大野北公民館で開催する場合、問題はあるか。

(斎藤委員)

そのようなことはないと思う。講師料等の予算が必要になってくるかと思う。会場使用料はかかるのか。

(山口委員)

大野北公民館で開催するのであれば、かからないと思う。

(坂本委員)

講師料は支払えるのか。

(事務局)

生物多様性ネットワークの事務局が水みどり環境課であるため、講師料を含めイベントをこのような場所で開催してほしいという提言を、区民会議として提出していくこととなる。本日意見をいただいた中で、担当部署等へ事前に確認をする必要がある。

(斎藤委員)

生物多様性ネットワークは事業予算が少ない。さがみはら地球温暖化対策協議会と異なり、事務局を水みどり環境課が担っているため、業務量が多くなり、市職員の人件費の部分を市が負担することになる。講師料の予算も少ないため、中央区区民会議から生物多様性ネットワークへ予算を出し、開催していくことはできないか。

(事務局)

広報さがみはらに対する提言書と同様に、事業予算に関しては担当課に権限がある。区民会議が提言することで、予算計上に繋がっていく可能性もある。既存事業をバックアップするための提言でもあってほしい。例えば、現在大きく年1回やっている事業を公民館単位で年2回開催してほしいという提言も考えられる。また、高校生以上を対象としているものが多いので、公民館を使用するのであれば、もう少し子どもが参加できるような、より地域に沿ったテーマを設定してもらおうということもある。

(坂本委員)

いくつかの高校の発表を盛り込んでほしい。内容が同じであっても大野北公民館で開催することに意味がある。講師料が捻出できないのであれば、博物館の学芸員にお願いすることもできるのではないか。その際は、区民会議の勉強会(令和5年8月開催)で話していた、相模原市の環境に密接な“ほたる”“ひばり”“けやき”の話も入れてほしい。

(斎藤委員)

シンポジウムの内容は、専門的なテーマが多かったが、2月25日に開催した内容は、一般の人でも楽しめ、勉強になる内容だった。生物多様性ネットワークでもこれまでの蓄積があるので、各公民館で開催する際には、これが市民に合う内容を検討できると思う。また、公民館で開催すると集客するのが大変だと思う。集客については、公民館や自治会に協力してもらい、関心のない方も来てもらえるようにしていければと思う。

(事務局)

最初は中央区内でと考えているかと思うが、生物多様性ネットワークは全市的に行っているものである。

(坂本委員)

開催が決まったら、中央区区民会議の委員にも可能な限り参加してもらおう。

(斎藤委員)

エコパークさがみはら(以下、「エコパーク」という。)でも、子ども向けのイベントを行っており、エコパークの方が予算の割り振りは比較的自由にできるのではないかと思う。生物多様性ネットワークは今後予算化して、ということになるので先になってしまう。エコパークは1年間で講座の予算があるので、早いうちに提言すれば実現するのではないか。

(坂本委員)

エコパークが主催となると、会場は探す必要があるということか。

(斎藤委員)

公民館で、このようなテーマで企画してもらえないか、という内容で依頼をすればエコパークは可能だと思う。

(坂本委員)

来年度、形になるよう事務局で調整していただきたい。

(事務局)

実際に中央区区民会議が実施する事業ではないので、区民会議として提言し、提言先が事業の検討や予算計上を行うこととなる。先ずはこのような内容で提言することが可能か、事前に担当課と調整する必要がある。

(斎藤委員)

相模原市まち・みどり公社（以下、「まち・みどり公社」という。）にも提言したい。

(坂本委員)

前回出席してもらった部署はどこか。

(事務局)

水みどり環境課である。水みどり環境課からまち・みどり公社に補助金を出したり、業務を委託したりしている。エコパークについては、ゼロカーボン推進課が所管している。所管する部署とも調整する必要がある。実際に提言するには、どのような内容で開催してほしいのか、どのような目線で開催してほしいのか、を伝えないと検討してもらえないのではないかと。

(坂本委員)

2月25日に開催したものと同じ内容ではどうか。

(斎藤委員)

2月25日に開催した内容は、市民に分かり易くて良かったが、暮らしの中で生物多様性を守るために学びになるものという内容では漠然としているか。

(事務局)

今回のグループワークのテーマは「都市の自然を次世代につなげるまちづくり」である。地域の方に対する講座やイベントを、どのようなテーマで開催してほしいのかを考える必要がある。身近な自然というテーマであっても、自然の何を感じてもらいたいのか。座学中心の事業や、先日視察した東淵野辺2丁目市民緑地のように自然に触れながら、という現場中心の事業が考えられる。

(斎藤委員)

やり方はいろいろある。生物多様性をまちの中で増やすのであれば、庭に植える植物を考えると方法があるのではないかと。外来種の問題であれば、イノシシやクマは人間を怖がらなくなったのが大きな理由である。例えば、野生の猿の写真を撮る際、人間は怖くないと思われなくてはならない。写真を撮った後に脅かし、山の中で暮らしてもらい、まちに下りてこないようにする。他には、地域犬を飼おうといった具体的な方法がある。やり方はいろいろあるので決めすぎないように、自然を守るために何を知り、何に気をつけなければならないか、というレベル感で良いのではないかと。

(坂本委員)

緑地保全の推進と区民意識の向上で良いのではないかと。

(事務局)

生物多様性ネットワーク主催のシンポジウムに対する提言として、「より地域に近いテーマで公民館単位での実施を検討してもらいたい」という提言となるのか。年1回の開催では、中央区内の全公民館だけでも実施できるまでに相当の年数が必要となる。

(斎藤委員)

エコパークで年1回でも開催してもらえれば、あわせて年に2回開催できる。

(坂本委員)

これまで開催しているシンポジウムに追加して、公民館で開催してもらいたい。

(事務局)

エコパークに対する提言も、「公民館を活用し、事業を実施してもらいたい」という内容になるのか。エコパーク主催事業がどのような形で実施されているかを確認したい。エコパークには、以前区民会議で配布しているエコネットの輪という冊子がある。公民館が主催する場合は、エコネットの輪に登録している団体に依頼して開催しているが、このような開催方法ではなく、エコパーク主催事業に対して提言していくということではどうか。

(斎藤委員)

エコパークの主催事業として公民館で開催し、更に、公民館の文化委員がそれぞれの公民館

において、追加で企画・開催してもらえれば一番良い流れだと思う。

(坂本委員)

先ず、水みどり環境課と調整し、開催が難しければ他の取組主体を探すのではどうか。

(斎藤委員)

現在実施しているシンポジウムの内容を変えるだけでは進歩がないので、1回実施しているシンポジウムに追加して、もう1回地域で開催してもらいたい。

(事務局)

大きい会場だけでなく、公民館のような地域に近い会場でも開催してほしい、ということによいか。

(斎藤委員)

エコパーク主催事業についても、公民館で講座等を開催してほしいと提言したい。

(山口委員)

水みどり環境課が実施するのか、生物多様性ネットワークが実施するのか。水みどり環境課は予算を持っているのか。

(斎藤委員)

水みどり環境課が事務局で、主催は生物多様性ネットワークとなる。

(事務局)

現在、来年度予算について3月議会で審議中であるため、来年度の計画はある程度決まっていると思う。実際、新年度になれば翌年度予算に向けての調整が始まるので、提言書を受ければ、翌年度予算を要求する際、事業を見直す等の検討が出来るのではないかな。

(山口委員)

水みどり環境課は樹木の伐採を委託しているので、予算は多少あるように思う。伐採した樹木の運搬まで委託すると結構な金額がかかる。東淵野辺2丁目市民緑地では、伐採後の木を置いて行ってもらっている。その維持費をイベント開催に予算を回してもらいたい。

(斎藤委員)

エコパークはすぐに開催を検討してもらえると思うので、エコパークにも提言したい。

(事務局)

提言先がエコパークになるのか、ゼロカーボン推進課になるのかは、事務局で確認する。

その他、地域で活動できる取組として、例えば、クリーンキャンペーンのように地域で活動できることを提言してはどうか。地域で同様のキャンペーンを行っているところはあるか。本市ではグリーンキャンペーンのようなものは聞かない。「地域で植物の外来種が生えてくる時期になったら見つけ出そう」のようなキャンペーンを検討してもらい、地域が参加することで地域の意識が変わってくることも考えられる。

(斎藤委員)

キャンペーンはどこが主体になるのか。

(事務局)

現状は開催されていないので、主体となる所も含めて確認が必要となる。

(山口委員)

先日、博物館での勉強会で聞いたような、身近なものについて専門家から話をいただくのはとてもいいことだと思う。中央区の身近な動植物の話をしてもらう。例えば外来種の話をしてもらい、次にそれをどうしていけばいいのか。外来種ではないものを実際に守ろうという話になるのかと思う。ハクビシンを例にすると、現在非常に増えている。駆除を業者に頼むと1㎡何万円という金額がかかる。

(斎藤委員)

具体的な対策としては、庭にある柿などは、食べごろになったら採取するなどがある。他には、昆虫も購入したクワガタやカブトムシは逃がしてはいけない、という子どもたちに向けたものもある。買ってきたメダカなどを池に流した方が良く思っている人もいる。このような話をしてもらえると良い。

(事務局)

シンポジウムとエコパーク主催事業について、公民館単位での開催を検討してもらい、より地域に浸透する取組を実施してほしいという内容になるかと思う。

(齋藤委員)

気になるのは、公民館で開催したときに参加者が集まるのかということである。公民館と自治会が連携し、企画を一緒に検討する必要があるかと思う。

(事務局)

区民会議から地域に対して協力依頼の提言をするのか。

(齋藤委員)

公民館へも協力についての提言をしたほうが良いのではないか。

(事務局)

公民館は周知についての協力をしてくれると思うが、実際に地域に声をかけるのは自治会になるのではないか。

(山口委員)

どこが主催になるかによって、公民館を通すことも、自治会の広報紙や掲示板を利用することもできる。

(坂本委員)

大野北地区のまちづくり会議に出せばいいのではないか。公民館を利用して開催する場合は、まちづくり会議へ提言をすればいい。集客のことを考えると、自治会でも社会福祉協議会でも構わないが、まちづくり会議がいいのではないか。まちづくり会議に協力依頼の文書を提出すれば、まちづくり会議でどうするかは検討する。問題なのは予算である。予算がなく講師料が出せないのであれば、講師料がかからない人へお願いするなどの工夫が必要である。

(齋藤委員)

1年だけではなく、その後も継続して開催してほしいので、一つの地域だけのことではない。区内でも地域性があるので、まちづくり会議等と相談しながらになるのではないか。

(代田委員)

周知するにはチラシ等が必要になる。

(事務局)

実際に開催が決定しなければ、チラシもないため、地域に話が通りにくいのではないか。取組主体が検討した結果、何年先になるか分からないのであれば、同じタイミングで地域に提言しても、地域としてどう対応すればよいか分からないと思う。区民会議では、開催が決まるたびに提言書を作成することはできない。

(齋藤委員)

第7期で提言をするのは、生物多様性ネットワーク、まち・みどり公社や公民館等に対して、地域で開催する企画を検討してほしいという内容か。公民館も協力してくれるという担保があったほうがいい。

(事務局)

公民館の貸館についてであれば、空いていれば貸してくれる。

(齋藤委員)

提言後、提言先での検討状況について、区民会議で報告してもらえるのか。報告がないと出して終わりになってしまうので、報告してほしい。

(事務局)

事務局で検討状況を把握するとともに、提言先から報告があれば、区民会議で報告する。

本日の検討内容としては、シンポジウムとエコパーク主催事業に対して、公民館を活用し、地域に身近なテーマで開催してほしい旨の提言をする方向でよいか。

よければ事務局で担当部署へ本日の内容を伝え、具体的に検討ができる事業なのかを確認し、提言書(案)を作成するので、次回の区民会議では提言書(案)の確認をする。

以 上

第7期第9回相模原市中央区区民会議小委員会（グループ3） 委員出欠席名簿

No.	氏 名	所 属 等	出欠席
1	齋 藤 奈 美	特定非営利法人 and Advance	出席
2	坂 本 洋 三	相模原市地区社会福祉協議会中央区連絡会	出席
3	代 田 修	田名地区まちづくり会議	出席
4	丹 波 晴 道	清新地区まちづくり会議	欠席
5	原 田 克 也	一般社団法人相模原市医師会	欠席
6	森 田 麻 里 子	公募委員	欠席
7	八 木 貴 弘	公益社団法人相模原青年会議所	欠席
8	山 口 信 郎	大野北地区まちづくり会議	出席